



今号のトピックス

◆リレー執筆第5弾 “新理事からのご挨拶”

- ①岡山久代 先生（筑波大学 医学医療系 教授）
- ②玉井奈緒 先生（横浜市立大学 医学研究科 教授）

◆第4回解釈体験型ワークショップの報告

武石陽子 先生（東北大学大学院医学系研究科 助教）

◆第12回看護理工学会学術集会について （企画のご案内）

第12回学術集会実行委員 大貝和裕 先生
（石川県立看護大学 看護学部 大学院看護学研究科 共同研究講座 看護理工学 教授）



看護と理学・工学、産業の融合、
超領域連携で築く未来へのイノベーション。

迅速査読
受付中!

◆リレー執筆第5弾 “新理事からのご挨拶”

①岡山久代 先生（筑波大学 医学医療系 教授）

私が看護理工学研究を始めるきっかけとなったのは、前任校の滋賀医科大学での縦型オープンMagnetic Resonance Imaging (MRI) との出会いでした（詳しくは看護理工学会誌 第3巻1号 巻頭言をごらんください）。女性の骨盤底機能評価や腹圧性尿失禁の予防・改善に関する研究からスタートし、現在では女性のメンタルヘルスの可視化や助産師が行う分娩介助技術の可視化などに取り組んでいます。

助産師は産婆時代から出産や母子のケアを担う存在で、その匠の技は実践知として後進に受け継がれていきました。現在の助産師教育は大学院化が進んでおり、エビデンスに基づく助産実践が基本となっています。しかし、まだまだエビデンスが不明なケア、可視化できないケア、経験に基づく技などが多々あります。もし私がMRIと出会っていなければ、このようなケアに対してそれほど疑問を抱かずに助産師教育を続けていたでしょう。MRIは私に「このような未開発な部分へ挑戦なさい」という切符を与えてくれたのかもしれない。

巻頭言にも記載していますが、看護職である私が、女性を対象とした看護理工学研究を進める中で大切にしていることは、対象である女性の立場を尊重すること、そして看護者としての視点を大切にすることです。学際研究において看護学への期待は高まっており、特に少子高齢化社会においては、子どもや女性の健康を支援する学際研究に注目が集まっています。実際に本学会誌でも、助産学や母性看護学の研究が増えていると感じています。

我々の研究室には、教員、博士修了後の客員研究員、博士後期・前期課程の学生、学類4年生（正規メンバー約30名）が集まり、看護理工学研究×ウィメンズヘルス看護学研究を盛り上げてくれています。そして今年度からは「ゼミ配属前だけれど看護理工学に興味がある、大学院に進学したい、岡山ゼミに入りたい」という1～3年生11名もNextメンバーとしてゼミに参加してくれています。1人の力は小さいですが、チームで取り組むことで、より深く、より広く、そしてワクワクするような学際研究ができると考えています。学術集会や学会誌で、皆さんに注目してもらえるような面白い成果を報告できるように頑張っていきたいと思います。



◆リレー執筆第5弾 “新理事からのご挨拶”

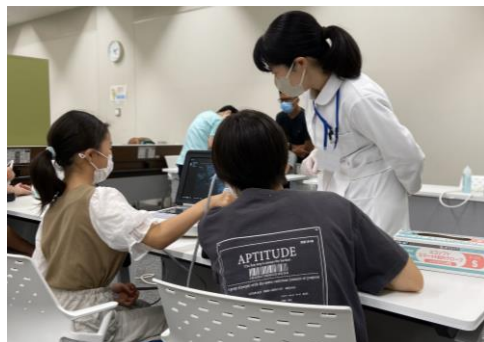
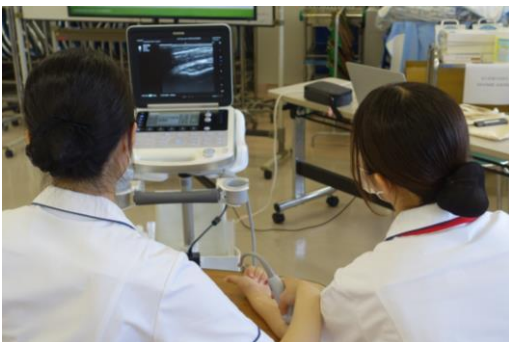
②玉井奈緒 先生（横浜市立大学 医学研究科 教授）

この度、理事を拝命いたしました、横浜市立大学大学院成人看護学分野の玉井奈緒でございます。初めての理事であり、不慣れな点もあるかと存じますが、看護理工学会発展のために努力してまいりたいと思います。どうぞよろしくお願い申し上げます。

前任の東京大学大学院医学系研究科に所属していた時には、真田弘美先生（看護理工学会初代理事長、東京大学名誉教授）のもとで「看護理工学」を学び、看護理工学会発起人の一人として、学会設立に携わらせていただきました。その看護理工学会で理事として任命いただきましたこと、大変嬉しく光栄に感じております。

2022年4月より横浜市立大学に着任し、研究・教育・地域貢献に奮闘する日々を過ごしております。臨床の看護師の皆様と共同して研究する機会も増えましたが、まだまだ看護×メカニズム解明、看護×ものづくりのイメージできていないと感じることがあります。臨床には多くのニーズがあり、そしてそのニーズを最も把握しているのが臨床で働く看護師たちです。私自身は、真田弘美先生の教室で当たり前、看護師が理学や工学の先生方と共同して実験を行い、ものづくりをする様子を見て、体験（実践）してきました。今は、その時のワクワク感を臨床の看護師や看護学生に伝え、少しでも多くの方に「看護理工学」の意義と必要性を理解してもらい、関心をもってもらえるように、活動していくことが目標です。

横浜市立大学では、2024年4月に共創イノベーションセンターが設立されました。まずはセンターを中心に、異分野の研究者や企業と繋がり、横浜の地から、看護理工学を発信していきたいと思っております。皆様、今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。



**学部の授業や横浜市の小中学生対象クラスでは、
エコーを用いて体内への関心を高めるとともに、
ケアの根拠や新たな活用方法を考えてもらっています**

**横浜市立大学大学院
成人看護学分野**

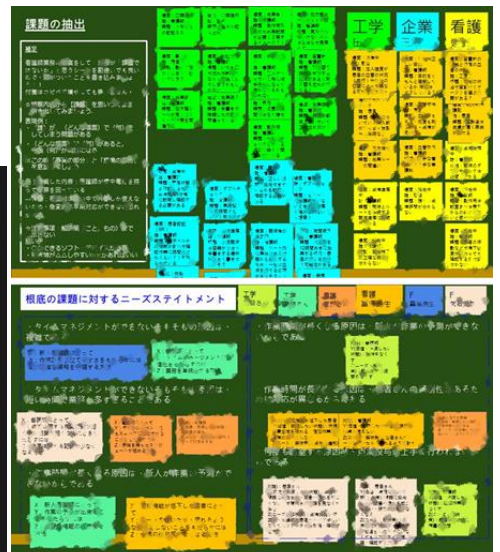
◆第4回解釈体験型ワークショップの報告

武石陽子 先生（東北大学大学院医学系研究科 助教）

2023年11月23日に第4回ニーズ解釈体験型ワークショップをオンラインで開催し、看護系10名、工学系8名、企業2名、計20名（次世代委員含む）の方にご参加いただきました（左下図）。看護理工学会次世代委員会では毎年、「ものづくり体験ワークショップ」と「ニーズ解釈体験型ワークショップ」という看護・工学・企業が多職種参加型の企画を行っています。ものづくり体験ワークショップでは、企画からプロトタイプ作成までのものづくりの一連の流れとともに連携相手のものの見方・考え方を、ニーズ解釈体験型ワークショップでは、取り組むべき課題を整理する思考を学ぶことができます。

今回のニーズ解釈体験型ワークショップでは「点滴の与薬」について、まず、看護師から作業工程やその中で看護師として大事にしていることが説明されました。その後、多職種で議論しながら課題を抽出・特定し（右上図）、誰にどんな効果をもたらす解決策が欲しいのかを表現するニーズステートメントを作りました（右下図）。どの職種の参加者にも難しさがあった一方で、「自分だけでは考えつかない視点やニーズを知ることができて楽しかった」という感想がありました。

このワークショップで、私（武石）は看護師として当然のこと・なんとなくやっていたことを、本当は何を大事にしてやっていたのかを内省し言語化する機会をもらいました。このワークショップを通して、看護師は本質的な課題を整理する思考を知り、看護師としての考えをできるだけ具体的に説明できるようになってほしいですし、工学や企業の方は、医療現場の分からない部分を正直に質問して、看護師の無意識下にあるニーズも引き出せるようになってほしいと思います。今後も、2つのワークショップで参加者の皆さんと、ものづくりに必要な思考を深めていけることを楽しみにしております。



第4回ニーズ解釈体験型ワークショップ参加記念写真

オンライン上でのグループワーク

看護理工学会次世代委員

桑名健太（東京電機大学）（委員長）、吉田美香子（東北大学）（副委員長）、
 雨宮歩（千葉大学）、金澤悠喜（慶応義塾大学）、北村言（石川県立看護大学）、
 楠田佳緒（東京医療保健大学）、武石陽子（東北大学）、三原陽一郎（ニプロ株式会社）、
 長江祐吾（東京大学医学部附属病院）、吉本佳世（大阪公立大学）

◆第12回看護理工学会学術集会について (企画のご案内)

第12回学術集会実行委員 大貝和裕 先生

(石川県立看護大学 看護学部 大学院看護学研究科 共同研究講座 看護理工学 教授)

令和6年能登半島地震から、はや半年以上が過ぎました。改めて、犠牲となられた方のご冥福をお祈りするとともに、復興に向けて歩み続けている方、寄り添ってくださる関係者の方々に、敬意を表します。

さて、11月2日(土)・3日(日)に開催される第12回看護理工学会学術集会まで、いよいよ3ヶ月ほどとなりました。有意義な時間を過ごしていただけるよう、鋭意準備を進めております。

第12回大会企画の一部(執筆時点の内容であり、変更の可能性もございます)

<特別講演>

特別講演1には石川県立大学学長の西澤直子教授を、特別講演2には東京医科歯科大学の三林浩二教授をお招きしております。西澤先生は作物の栄養吸収メカニズムを解明され、鉄欠乏耐性イネを作出するなどの業績を有しており、三林先生は口腔などへ着脱可能なバイオセンサ、揮発性マーカーのためのバイオ蛍光ガスセンサを開発されておられます。本学術集会のテーマ「バイオとの出会いで広がる看護理工学の多様性(ダイバーシティ)」をかたどる特別講演を、ぜひお聞き下さい。

<教育講演>

石川県立看護大学の小林宏光教授から、看護理工学の概念に通底する看護デザイン科学についてご講演をいただく予定となっております。

<シンポジウム>

シンポジウム1では、バイオの視点を取り入れた看護研究を進めておられる先生方に、バイオ研究の強み・ことはじめなどを講演いただきます。

シンポジウム2は、災害看護・支援をテーマとしました。支援の現状、災害時の情報・通信の確立、遠隔支援などについて講演いただきます。

シンポジウム3では、口腔内の環境と全身の健康に関するご講演をいただきます。誤嚥性肺炎や災害時の口腔ケアといったトピックスを講演いただきます。

<共催シンポジウム>

日本生体医工学会、日本薬理学会、日本生物工学会との共催シンポジウムを企画しております。

<一般演題>

全てポスター形式で、懇親会を兼ねます。軽食やお酒とともに、ディスカッションを楽しみましょう！



第1会場となる講堂



ある日の実行委員会の様子

その他にも、ランチオンセミナー、AIと組織学のハンズオンセミナー、学術委員会ワークショップ、日本海に沈む夕日見学など、各種企画も準備を進めております。

事前参加登録は10月11日（金）までとなっております。金沢駅からのシャトルバス（無料、要登録）もございますので、多くの方々に参加いただければ幸いです。参加登録や最新情報については、第12回大会のウェブサイト（<https://nse2024.net/>）をご覧くださいませよう、お願いいたします。

皆様のご参加を、かほくの地でお待ち申し上げます。

バイオとの出会いで広がる
ダイバーシティ
看護理工学の多様性

2024 (令和6)年
会期 11月2日(土)・3日(日)
会場 石川県立看護大学
〒929-1210 石川県かほく市学園台1-1

大会長 峰松 健夫 (石川県立看護大学 教授)
副大会長 真田 弘美 (石川県立看護大学 学長)

<https://nse2024.net/>

学会からのお知らせ

看護理工学会の最新論文は、J-STAGEおよび学会HPで公開されています。是非ご覧ください。

J-STAGE[看護理工学会誌]

<https://www.jstage.jst.go.jp/browse/jnse/-char/ja/>

看護理工学会HP

<http://nse.umin.jp>

ニュースレター発行

広報委員会

委員長：浅野 美礼 (信州大学)
委員：大貝和裕 (石川県立看護大学)
青木 真希子 (順天堂大学)
内藤 紀代子 (びわこ学院大学)
寺澤 瑛利子 (筑波大学)
岡山 久代 (筑波大学)

看護理工学会事務局

〒169-0072 東京都新宿区大久保2丁目4番地12号
新宿ラムダックスビル(株) 春恒社 学会事業内
TEL：(03) 5291-6231
FAX：(03) 5291-2176
E-mail：nse-society@umin.ac.jp